

1 第24回全国中学生創造ものづくり教育フェアについて

詳細は全日本中学校技術・家庭科研究会「ものづくり教育フェア」のページをご覧ください。右のQRコードから所定のページへつながります。



概要、担当を以下にまとめています。

- 全国生徒作品コンクール（運営担当：群馬県・新潟県・全産協・学会）
- ア 全国各都道府県で作品を募集し、技術分野・家庭分野、授業内製作作品（I部門）・自主製作部門（II部門）を合わせて、各都道府県市計6作品までとする。
- イ（公社）全国中学校産業教育教材振興協会と共催で作品を募集する。

(1) 愛媛県『生徒作品コンクール』（担当：事務局 平岡、小田、猪川、兵頭）

各管区から県審査に出品した作品に表彰状

ア 部門 I、II部門を合わせて、計6作品まで（組合せは各都道府県市で判断）

- ・ I 授業内製作作品部門：教科の授業内で製作したもの。総製作時間数の内、80%以上の時間が教科の授業中に創造製作した作品
- ・ II 自主製作部門：総合的な学習の時間、長期休業や放課後の活動で製作したもの。
- ※ 2人以上で製作した作品は、II部門のみとする。また、技術分野1点、家庭分野1点までとします。

イ 出品方法

- ・ 各管区での夏季実技研修会に作品を持ち寄り、各管区で2～5点程度を選考。
- ・ 家庭分野の各校の出品数は、各学校、学年の学級数程度とさせていただきます。

ウ 作品の大きさの制限 縦+横+高さ=160cm以下 重量 25kg以下

エ I部門は、制作費が5,000円以下であること。

オ 今年度はWeb上での事前審査は行いません。

カ 審査基準 I部門：問題解決の過程を重視 II部門：創造性や技能（正確性）を重視

(2) 『木工チャレンジコンテスト』（担当：研究局 薬師神、井ノ口）

与えられた材料を活用して、生活や社会の問題を材料と加工の技術により解決できる作品を設計・製作する。作品は製作時間4時間以内で完成させる。

ア 使用できる材料は、木材あるいは集成材の板（寸法 t15×W200×L900:数量2枚）と合板1枚（t4×W450×L450）とする。樹種は自由。

イ 作品の大きさは、3辺の合計長さが160cm以内。

(3) 『豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール』（担当：研究局 土手、向井）

新しい学習指導要領に対応した「豊かな生活をつくるアイデアバッグ」コンクールへの移行 令和3年度から新学習指導要領が全面実施となり、本コンクールも新学習指導要領に沿って使用する素材等について「自分や家族の衣服やその他の布」に変更する。

ア バッグ本体の全部または、一部に、家庭にある自分または、家族の衣服を用いる。その他、衣服以外の布などを加えてもよい。

イ 衣服の一部をそのままの形で1つ以上活用する。（例：ポケットの形状やボタンをそのまま

- 利用するなど)・『バッグ』の口を閉じられるようにして、中身が出ない工夫をする。
- ウ 入れるものに必要な強度が保たれるように、布目の方向や縫い目の大きさ及び縫い代の始末の仕方などを工夫する。バッグのいずれかの部分にまつり縫いを取り入れる。スナップは、必ず1つ以上付ける。
- エ 3時間程度で製作できる作品とする。

(4) 『あなたのためのおべんとう コンクール』 (担当：研究局 土手、田中)

- ア 「魚を使った調理」を主菜とする。1グループ1～2名、材料費1人分980円以内、100分以内で調理。全国で18チームがコンクール本戦参加

(5) 『創造アイデアロボットコンテスト』 (担当：研究局 上岡)

ア 競技部門

- ・基礎部門 ・計測・制御部門
- ・応用・発展部門 ・動画部門

イ エントリー

- ・11月24日(日)の県大会(港南中)を経て、岡山県での中四国地区予選(12月 日)開催。
- 地区予選大会等の結果により全国大会に出場する。
- 県大会詳細については、各中学校に告知文を後日配布予定

(6) 『プログラミングコンテスト』 (担当：研究局 薬師神、井ノ口)

- 全日本中学校技術・家庭科研究会と毎日パソコン入力コンクール事務局が、プログラミング学習教材として授業で使用できるアプリを開発。専用のアプリで学習と演習を繰り返しながら、チャットボットの制作を行う。
- 参加資格・選抜の方法
 - ◇予選大会：中学生であれば誰でも参加できる。
 - ◇全国大会：第24回毎日パソコン入力コンクール6月大会及び秋季大会で出場権を得た中学生12名
- 参加費(利用料)
 - ◇予選大会：第24回毎日パソコン入力コンクール参加規定に準ずる。